



## たくさんの笑顔が

とうとう35Rになった。メンバーに変更もない。これは当たり前のように思うかも知れないが、他クラスを見てみると、留学している人のいるクラスもあるし、休学中の人や進路変更した人のいるクラスもある。だから、全員が無事に？ここに顔を集められているということは、それなりに希有な事態であると言えないこともないのである。

さて、しかし、同じメンバーだということで、なれ合い状態になってしまう危険性があるから、そうならないように注意しよう。年度当初ということで、授業担当の先生方が新しくなることから、教室の座席が出席番号順に戻った。一年前のフレッシュな気持ちを思いだして、新たなスタートを切ってほしい。

メンバーが変わらないことでイイこともある。もうそれぞれの人の性格や、このクラスとの関わり方の特色なども、何となく分かっているはずだ。だから、余計な緊張を強いられることも少ないだろう。

そこで担任としては、そうして分かっていた個々人の持ち味の「イイ面」を、しっかり生かせるようなクラスになってほしいということを願うのである。誰にでもイイ面と悪い面がある。その悪い面ばかりに注目してその人を評価したり、クラスの中に位置づけたりし続けると、クラスの雰囲気全体が悪い方向に流れてしまうものだ。世間で騒がれている「イジメ」というのも、そういう流れの中で生じて来てしまうことなのではなかろうか。

だから、35Rでは、ぜひその人の持っているイイ面に着目して、そのイイ面が生かされ・伸ばされるような雰囲気をつくる努力を、皆でしてほしい。

例えば、それぞれの科目には、それぞれその科目が好きな人がいるに違いない。とすれば、どの科目の授業時間も、その授業を受けてイイ結果を出したいと思っている人にプラスになるような雰囲気を、クラス全体でつくっていくべきではないだろうか。リレーが好きな人、合唱が好きな人、ライオンが好きな人もいるだろう。とすれば、その人たちが思いっきり自分を出せる雰囲気を、クラス全体でつくってゆくべきではないだろうか。部活動にかけている人に対してもしかり。

担任が唯一望むのは、そういうクラスになってほしいということである。そして、もし本当にそういうクラスになることができたなら、色々な結果（行事の成績、進路の結果など）は自然とその後についてくるはずである。良い結果を目標として追い求めるのは当然だが、その結果に至る過程の中にこそ、クラスの真価が問われる局面が、そして、君たちが大きく成長する局面があるに違いないと担任は思っているのである。

\*

日比谷での生活も今年が最後（のはず？）である。どうか思い出のいっぱい詰まった一年にしてほしい。ここ日比谷での思い出は、それとともに一生涯を過ごしてゆくことができるような価値を持つ。「あれほど勉強した時はない！」とか、「●●で優勝して感動にふるえた…」とか、「合格者に自分の名前を見つけて飛び上がった」とか…。そして、その素晴らしい思い出のシーンの中央にいる自分の周りには、必ずや友人たちのたくさんの笑顔が満ちあふれているに違いない。